

東村山市立東村山第六中学校 3年 内藤 拓也

「野球やサッカー、ゴルフなどで賞金を得ても、その多くを税金でとられる」という話や「昔は消費税なんてなかった」という話を聞いたことがあります。僕はこれらの話を聞いた時、「なぜそんなに税金をとられるのだろう」と思いました。

今年の三月から新型コロナウイルスが日本でも流行し、国は多くの企業へ休業を要請しました。その補償として企業へ補償金を渡したり、仕事ができなくなり生活が苦しくなった人もいたため、一律十萬円の給付を行ったりしました。これらのことを税金で行っていることを知り、納得しました。しかしその後、学校からもらったパンフレットを読み、国が借金をしていることを知りました。税金をあんなにたくさんとっているのに、なぜ足りなくなるのか、ということに疑問を持ちました。そこで、他にはどんなことに税金を使っているのかを調べてみると、自分にとって当たり前だったことの多くは税金によって支えられていたことが分かりました。公共の施設の建設や維持、学校の教科書類、警察官・消防士の給料、救急車の出動などはどれも、自分が当たり前だと思っていた生活をするのに欠かせないことだと思えます。税金により高校の授業料を補助してもらえするため、より多くの高校を視野に入れた進路選びもできるようになりました。自分が好きな卓球ができている日々、学校で授業を受けられている日々、安心して過ごせる毎日が全て税金によって成り立っていると思うと税金がいかに大切かを身に染みて感じます。そして、この作文を書いているうちに税金は「とられる」ものではなく、「納める」ものだということに気づきました。

税金を納める人は税金が何のために使われるのかを知る必要があると思えます。僕もいつかは税金を納める時がきます。けれども納める時になってから税金について知るのでは遅いと思うので、今のうちから税金について詳しく知るようにしたいです。